玄冬集

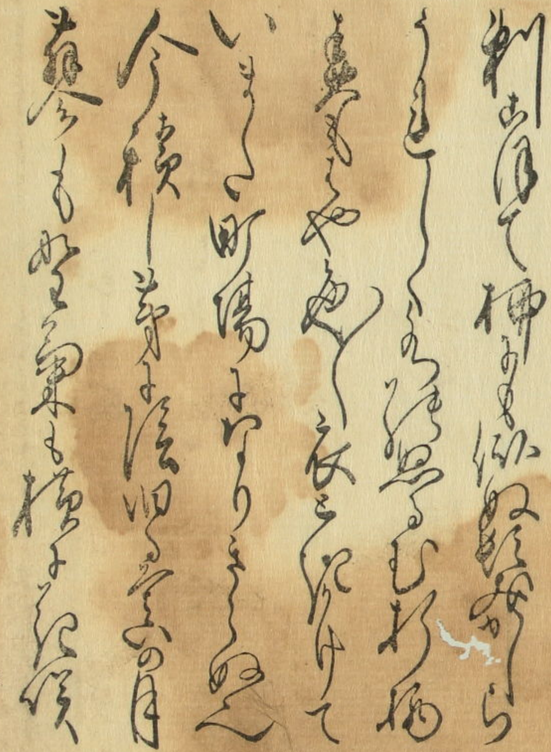
芭蕉翁の御世より今日まで百年一周の
忌にあたれるよりて門人淮南が何がしまりて
生前のあはれとけるものは文通善の人
と編みて一集となし此卯年も東林花
と交を結ひ侍りしこゝろよなりて是を卯花よりと
明業に比のかつらう時のえらむ事備へぬ
旬程の寫す書
篠光夜
天府

蕉下居士者何人耶蓋古之誹諧者流
也居士今之人而謂之古之人可乎可也
居士善和歌能誹諧夫誹諧和歌之
一體古之誹諧猶今之誹諧也居士隱
于龍山日夜不切劇者果然古也
非今人之觀焉宗儔啁誹諧私淑艾

之久矣嗚呼此集出于人間耳食之士亦當知世之誹諧淑古之誹諧也

明和甲申冬十月

葛陵聖人高峻題



心祇　妙榮

涼湖子　蘭明

機夕　執筆

行はれて明るぬ春の材淀　文魚
潮満ちて江舟へかゝる花筏　心峨
流れ寄せうらゝかなれども　柏筍
角川稚子みな鮎あさる波　宗波
笑ひ合ふ人のうらやましき　桂舎
帰る雁の鳴く頃月出る　文旅
一句しる人の世の波　半秋
鄙のうらゝ流れ物　暁雨
流れ出る舟を眺むる　山狸

来て長く立ち寄る人の波
咲き乱れて浪の花
うらゝかなる山の色　山心暁
和歌の浦の人の恵　珉里
相合ぬまで人の恵　芦貫
打ち出でし時しらぬ世の楽　錦車
人の心の波立ちいそぐ　百夫
流れよ寄せ合ふ海辺の国身　十橋
長閑の時もしめる春風　珉里

吹時て蓑と書の字の言
まこと詩作もてるくらの
う[illegible]の字無と濃墨より
臭もの[illegible]もなく
香い人かて[illegible]
新酒しり[illegible]
[illegible]
古々のなり表なりより
体よも[illegible]

文笙
機夕
船歩
文魚
祇南
宗成
蘭明
十橋
暁雨

風とかとく人のいつまの工
陸人[illegible]
とこく思る日も少くより[illegible]

四季雑

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

祇南
金翠
洋水

涼湖子

[illegible]　涼湖子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

[illegible]　麗翁

[illegible]

○

[illegible]　魚貫

[illegible]

[illegible]

○

[illegible]　心水

[illegible]

[illegible]

楼閣ハ隅や山や又霞
まじめや天下の覚悟とる流
埋水も消る世よひとつ浮世ハ
さ波の氷とかしやはる宿

琴水

○

蘇出ても知る人ぬし山さくら
陰に積ふ雪に椎しるの日和かな
雨に冬ふる夜長ふる夢はる冬の雪
松に積むや毛虫も雪折れり

柳雪

妙ある所細腰の手柄かな
桜より外の何りかむ寄りに
空も蓮の露にけて冬寒
かうかきも家ふかうに付あかね

其鮑

○

初るものの月と言ずる柳白し
出る柳の牛須原ても数まさず

秋感

陰思女

星合や世を楮ふちしめの紐

名の時雨ふる海の末枯れ　其堯

○

ふるさとの秋も暮るる雲の色　花明

昨日迄て今日の海の秋の雨　西貫

○

月の海よりてる石なりけり

雨さめも乾ぬやたの雨

ものあはれ秋の海の秋の雨

見へつゝ消ゆる時雨巾　菊人

時雨ふる紙せい書人書留

拾いつゝ代と言人の記

情むなしく年とのみて梅の路

心の石い原一帰ゆるかな　時長

根とんゝや連西の海の渡り

風ふきし夏の夜の夢の跡

あるるとは伽の樣出る月

[illegible]　風塵

題納涼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　心祇

独吟　其勉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今こそ世中と思を捨るへし
まさりて下川越ゆる留
明石の上種取りこのを
安政浮世の来まよこれより
あまりハ御幸志らかふ町
深草人々ていちいさ纔
南唄嗅出東るく有地にまた
ひハ幽さ唄艶し野の勝所り
東はよ上厳かに面しけそ

まり景あり山中文人々花鳥深き
うけすの楊屋の庭丁り利
駿前若柳も頭のそて行すり
後のかほり川添やかまる
珠都居の留まる所ハ醍中
人酒呑も名人のうち
以花しとかふさし細るも訓様
あきらもそふ樹の上の長三
寓中あまた町行りて綾の手

[illegible]

四季子混雜　　曉雨

[illegible]

○ 梅まつの記の石碑や水仙　左吾改心大

信只
桃溪
今
露光
青里
故栄
柳斜改
心夕
遮雨

萱舍
梶女
阿水
祇道改
如髪

[illegible]

信濃　祇山

[illegible]

祇郊

[illegible]

如髮

[illegible]

寄石敬　魚眞

[illegible]

素郷

[illegible]

心左

[illegible]

心志

[illegible]

うちひさしい鶴島のふの使うも
若葉やむかしの春の色さびて
和泉やんの波よりかすかなる
春雨や宮田川なる新酒
一枝を泥にとられさしもぐ
さつきの雨よりくもりなき
新緑やたまの女の黒髪の中へ吾時
若葉雨よりあけのなれ沖の
白鷺よ柳のうごくあけさい

信長薄門 祇国

陌長段 祇長

、巻石

、鳥天段 祇洞

、祇卜

、其笠

信濃
玉芝
扇郎
信夕
青奴
祇亭
花溪
里暁
一路
白志

二月十日

寒駅　独吟

心祇

ウ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

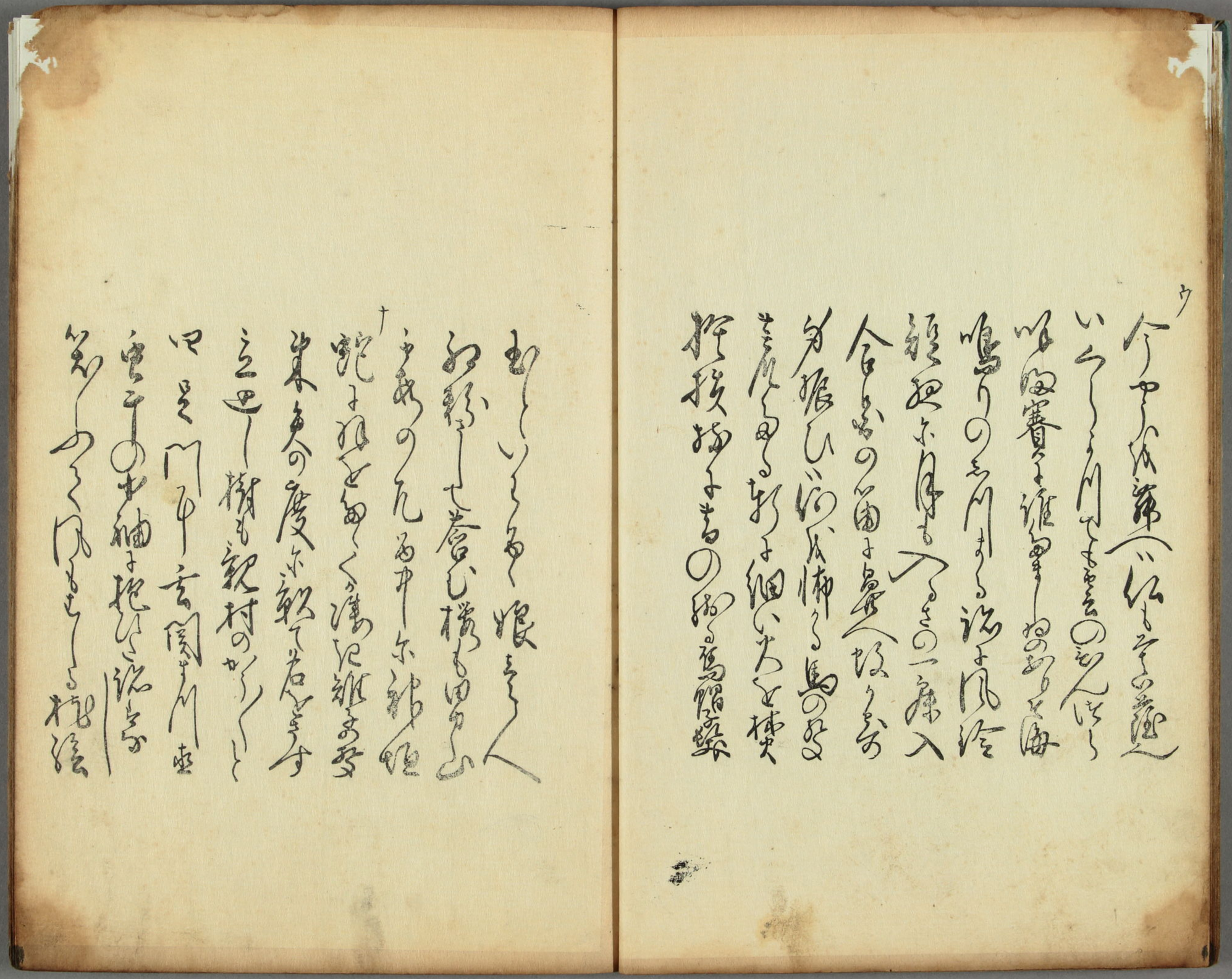
椿へ入れこつま顔まかの咄める
ともし目をとふくむ山の端
こんりは朱の烏帽子の野に
拾ふかみのちうひ和白
ウ 鉢扱ひ霙ふて月は森の薄衣
面白し夢ふすまくさし風
酒香姑目ハら絶らん浪まる
卯の花も出へかくし
咲物ふ指やよるの山そつ

古筆をみるのはやく摘まよ

龍仙

夏しや烟むる遠近人家り
にとく村のあいか渡
見下し深く松柳も振りえて
ら雨と雨ほと鳴くい宿
めくり深る畫ふ朝日の暈
ゑ生房風あも越る蝸庵

独吟 青雨 心祇



酒米の日中を眠るかくつける
清水て川てん深ふ香る鮑
東渡の寺も交わし山の眺り
炭の庭に故桃梅の實
三ツ夜が月に枝のたえぬ
ウ　文てさる扇に中せる　松明
法の道精に篝の鉢縄之
鍬ひいて人迎ふ浮の世
人呵る杖も杖をてたゞ杖なら

七曲めくかさひゝ手紀
ましてや加の浴は無量壽
蔵も冊へとしくりのそし

○

加え続ひて人も珂や柳の作
へおの川よりする花さくらん
も月陰や花の落花と思ふ花
さとハ出と地中の梢と新の音

心鷲

[illegible]

霞香　女
俊女

[illegible]

心祇
如髪
祇山
祇郊

[illegible]

髪
[illegible]
山
郊
髪
郊
山
髪
山

髮
郊
山
郊
筆
山
郊
髮
山

郊
山
郊
髮
筆
郊
山
筆
髮

郊髪山髪筆

心祇心左祇因

素卿奇石執筆左因卿石左因

郷
石
左
因
郷
筆
石
郷
因

左
石
郷
因
左
石
郷
因
筆

道歌俳諧合ぬ物を解り
小使帯の外を長く居
十日の夜清て電の光
渡る月に成る鼠の腹附
ちくと鄙まる紙を捨て
書こら掛ける人目

左石郷因左筆

歌僊

西行の歌を詠ずる
一寸考へる
春門を船渡りて
さくらの上に
藤原定家
梅の花
ウ
梅の香を
懐紙出る
乾鏡

心袋旦
去留
梅鏡
風塵
執筆
旦
留
鏡

八十七歳にて成就仕
神通通利一切諸仏
持佛とうたへ（唱える）新光
凱陣の為油壺の酒
月や宮川書の夕暮
はしり筆表をやすらう
ムラ（村）雲も松の梢や
紀の新宮に古仏のなりて
ちりの世界の仏菩薩の

塵
留
且
塵
鏡
且
塵
留
且

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
鶴の目の毎日
追へ追うて
ゆく牛の目前に
金氏部と言ひ
ムラ（村）雲の油の壺石仏に

鏡
留
塵
鏡
且
筆
留
塵
鏡

留
且
鏡
塵
且
鏡
留
塵
筆

四季混雜

去留
飛且
梅鏡

蕉下菴居士像

秋の風

紙燭清

[illegible]

雪鹿洞

魚貫

追悼

[illegible]

[illegible]

津水

妙音

[illegible]

[illegible]

[illegible]

植梅津嶋

うへとかくれの梅の咲しより
いと香をうつしてひとの袖
梅の花
そゝ梅は花の香を桜いも
風よりさやもうつりけり
横笛袖
かほりくるふたりふかいたかれしえんの
人もかくやは袖に梅もらん

真中庵娘
三溪女

春雨
とふ人と梅つもしも花咲はふよ
そのうちの香その香のあかく
山の郭公
白雪はとも人も梅そへて
梅りこくまの庭の白雪
詠み和歌かしこく父さまにいとよく
似人とのしめして手習くんひろく

そのしのゝめのひかりそらにかへり
ける御まへ貞色のゆかしさひのかけ
かはすか御かりのひしるゝかなしみも
ゆきもいさんてさなくそれもかなしく
しかをくらきに三とせになりぬ

三月種し梅は色もかはらて　せの
あるしそ庭の声をかり鳴
子のふかひふかくせひてなきの　かきし丸
みとせを重ね哭し涙御つりもする

追悼

三保女御かりかくて百日
四月はかりになむありけれは
七日ことにかゝはけて墓参す
まりくる人は世の人にはあらぬ
はうきもしつかにかゝる中に
いつかまたのかの
うくそこかかしくて
涙をやさの本消て御かる　妙栄
さしぬるのとの世にさそふらん
まさきにゆかる御人はや
ミの命ほかなさよ袖時雨　賀し

追悼

[illegible]時雨降る二日
[illegible]の頃[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]やも
[illegible]庵　涼湖子

○
[illegible]　せの

一[illegible]師かもてのむこと
[illegible]と老奥[illegible]
[illegible]稲[illegible]
[illegible]の養[illegible]
[illegible]
二人[illegible]の[illegible]
[illegible]

人[illegible]おこ[illegible]ゆくも　奥貫

悼

[illegible]鶯[illegible]　其艸
[illegible]　蓼水

旧友某に居る名残りけるを
おしみ無縁なるともかしなか
悼茲子宗悼句を

その後へかつる法の友千る　空翠

追悼

ぬれ衣も恥かし師走の空　暁翁

旧おしゝ心の中を留りぬと
聞しはかりつゝきて

行脚を知りしことし大寒哉　宗成

名将の塚へ手向のみ花　暁雨

追慕

道咲きふく人きく桔梗の時雨哉　祇卜

わか桔や菓の見名は何かゝる　其白

ことし師か偽りし日を偲る

雲もけふ越ゆ今も師の影　玄義

御なきやさしの日いつれを
その暁師世上の別れと
なりけれは猶小やまし
亀しと人て声を立て

みちのくの隙とふ通りぬ涙　心水

右の三首和歌の梅花
[illegible]
人の分倫うるはしうれい
[illegible]
俊女

追善

[illegible]
佐尺

[illegible]
風塵

[illegible]
去留

[illegible]
既且

[illegible]
梅鏡

[illegible]
信ハ
心志

今い世よ[illegible]
如髮

[illegible]
祇因

右の[illegible]
祇潤

[illegible]
祇長

いま文[illegible]
祇山

旧友[illegible]
[illegible]

次歴の[illegible]
[illegible]

雅了

追悼

[illegible] 蘭明
[illegible] 半林
[illegible] 祇南
[illegible] 珉里
[illegible] 機夕

追善

[illegible] 船歩
[illegible] 文星

[illegible] 山史
[illegible] 文魚

追墓

[illegible] 十橋
[illegible] 来徳
[illegible] 心峨
[illegible] 宗波
[illegible] 文旅
[illegible] 百夫

[illegible]

[illegible]

捻香　柳雪

[illegible]

百ケ日　其麹

[illegible]

[illegible]

[illegible]　佐尺

進歩

[illegible]

信品　心左

進猫

[illegible]

柏筍

[illegible]

[illegible]

夫水

[illegible]

心我鶯

[illegible]

三曉

蕉下菴の行脚絶なく
ひとゝせの国忘ずありける
之と文字翁とい〻鶴鳥の
羽を合せしもさらに其句
多毎ありけるそへし
月しぐれ陽炎哉ふ
まて一句と送りけるとて

森の子枯しも冬の日もいそがわや　蕉下菴

金翠

追福

咲さとて花も来るも降り哉

栃木 寒駒

深きる日数一とせのさみれ、

青雨

追善

斎雲

難波みの附の行

かしもてく文台やもち合ゐ掌

みな撲の名残りし候

手すり老る器もいれるかれ

上客とのいそとあけて座

眼子揶る枝とせ人と歩のゝ

やかし花の開ひそる色

心祇

風塵

既旦

梅鏡

去留

執筆

塵
且
留
鏡
且
塵
鏡
留
塵

且
鏡
留
塵
且
塵
留
鏡
塵
且

[illegible]

鏡　留　且　鏡　塵　且　留　塵　鏡

[illegible]

且　留　筆

柳雪

鷺十

信及

如髮

往昔蕉庵のもと人満りて
先人師翁居士の墨跡を秘ふ
師曰前に誰か此手何見へてなは
去あのゝ時見えかたへさしてはゐ
なしとくかの俳文の日記の中にも
あらはれて師ある人々の一句よ
えぬ小書を添えてありしも今さら
紀念とも重ねて写も得なく惜いは
流石ありとあるみ此谷の営も保
たりとき尊り情ふ墓にけ頗の
まうくるや遊跡定るもてなむ人さまに
しまふ親かしめてそのとゝろ字風
みな何れ部此一軸を頂きのかくよ
かけていさゝのうち荘厳の内しなく

待る人ちりくりの服を纏し
より後は老翁の筆をおりおりなとして
ある秘へ伝へ行るとのより

蕉下菴居士　心水

翁の住家よ今は書のおの一聚ふ
句をのんと書き句ふ荒
池よの中の中より芭蕉とぞ
ちうつの何とふ之庵なる里
昔を家の近隣関孔子書書した
建何の手織ましくも至

題詠

月の新茶の薫りの一めぐり　花明

みどりなる春の雨一男り　永示

なるほどの心の底の心地して
心紙帥を良世とうり行ふ
雅よりもうつしもすしもそれ
一回忘れなりり重世のひの
うるとよ松年貫し時なしうふ
事のあり流れいなりんと一名と
一日の間さしたんと云ふさ
ものつよ海ゐせて

潤ひをもひ花の上の間　都山

信濃

祇山

祇郎

如鬢

心志

風塵

今

去留

既且

れなる人をあのもの上の間
春りの美自人は海りも、
ムムムの馬もなる丸一回忘、
平の馬和なりりとのるるりて
忘るるるるるるるるる村はの
思ふ花仏ふるるるるるるるふ
おうるるるるるるるるるるるの美信
俳の平ふるるるるるるる俳り一回忘
和平和よ海さるるるるるるるる美

[illegible]

歳星

雑句

[illegible]

遊猫　其勢

[illegible]

百菴

[illegible]

東爲

[illegible]

買明

[illegible]

正朔

[illegible]

正圃

[illegible]

春武

[illegible]

芦貫

[illegible]

見指

[illegible]

軟輅

且利

追悼

[illegible]

菊童

[illegible]

祇徳

泰川

氷魚

追悼

小田原

露貫

其要

祇光

追慕

[illegible]

記隆

懷紙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠きこゝろ
うゑ姫の
ゆとの
ゆゝ
梦とのこ

福生　豊秋　霍之　富晴　萑延

進福

女 梅枝　女 立百　女 千路

三登　一艸　心哉　秀民　長荷　岷水　大英　桃義

[illegible]　心牛

[illegible]　仝

進善

[illegible]　蕉春亭

[illegible]　心牛

[illegible]　牧十

[illegible]　蕉蓮

[illegible]　三登

[illegible]　桃義

[illegible]　心來

[illegible]　福生

[illegible]　魚傘

[illegible]　心哉

[illegible]　豊秋

[illegible]　霍之

[illegible]　冨晴

千路
秀民
一艸
長府
岷水
古園
牧十
蕉延
三登

福生
心来
心哉
奥傘
霍之
豊炑
岷水
長府
一艸

富晴

千路

心鶩

秀民

大英

梅鏡

偈　釈不老室

吹滅根元不會人
蕉君何事勿容身
自家幸有光明藏
譬極玄辨迷路津

追慕

その月日のうつり来りまかりもとまりもとまりぬるものの

世一さよ白えをりて
ちるもの白くはうとかうぬ
ぬぎちらかんくの
人間紙なる紙しもまも
貞徳いさくのうをのうへ
いさくのうをのうへ

ハト
拜

古進書いたの句〳〵寄仙亦の次第
なるべしとまる伝遠を遠へるべく

心水

跋

此頃蕉庵の門人松尾芭蕉翁
集句芭蕉翁の俳句
ちなみを拾ふものの追遠のこころ
懶ちんの風流哲士の世をなりらるべ
陽日ちよ九回まや海ちまの石の行ちん
ちるを人へ俳句無文〳〵あつ海ちも

曉羽

上野國群馬郡 所久津村

上野國群馬郡
所久津村
吉澤市兵衛

明和元甲申冬十月

校合　魚貫
風塵

清書　梅鏡

補助　曉雨

編著　心水